

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1672100151		
法人名	医療法人社団 寿山会		
事業所名	グループホーム 福光ほほえみの家		
所在地	富山県南砺市法林寺 4 2 4 番地		
自己評価作成日	令和2年1月25日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社
所在地	富山市荒町2番21号
訪問調査日	令和2年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「入居者1人ひとりの思いに寄り添った、心を込めた介護を心がけます」「地域と交流に感謝し、地域社会で支える介護の輪を大切にします」を運営方針として、入居者の家族の方と共に介護をして、日々の生活を見守り、一人ひとりのケアに運営方針を遵守しかかわりを深めています。又、地域社会（老人会や学校等）との交流を大切に継続しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「福光あおいクリニック」を中心に、医療連携がしっかりとできており、思いやりの心を大切にケアに取り組んでいる。利用者にとって地域との関わりは稚拙との思いで、棟方志功の貼り絵を文化祭に出品したり、小学校との交流もあるなど、地域の行事には積極的に参加している。ボランティアによる習字教室や陶芸教室なども開かれ、利用者は楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

グループホーム 福光ほほえみの家

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念である『和顔愛語』を全職員が共有し実践に心にかけている。地域との交流に積極的に参加し、継続的なつながりを大切にしている。	法人共通の理念に加え、職員が話し合っ て決めた事業所独自のモットーとして、「利用者一人ひとりの思いに寄り添い、心を込めたケア」を心掛けることを、ミーティングや研修会で唱和し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者は全員地域の老人会に加入し、敬老会・そくさい会・公民館祭などに参加している。小学校の行事に参加や、来所しての総合学習で交流を図っている。又、介護実習生を受け入れ人材育成にも協力している。	地域行事などには積極的に参加し地域との関わりを大切にしている。地域の敬老会には利用者全員が会員に登録されており、都度招待されている。また、運動会にはテントが準備されるなど、地域の人達との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加する事で、グループホームの存在や認知症への理解や接し方を学んでもらうことで、施設の役割や認知症への知識を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議に参加される委員に「ほほえみ便り」や資料を渡し、運営について説明や質疑応答を行い、介護サービスの質の向上を図っている。	運営推進会議は定期的 に開催され、自治会長や民生委員の参加もあり、地域の情報を得ている。事業所からは、地域の催事に参加した時の様子などをスライドを使って説明し、委員からは防災マップなどについて意見が交わされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南砺市地域包括ケア課の職員に運営推進会議に参加していただき、運営についても意見を頂いている。「ホットあっと安心カード」を全ての入居者を家族の同意を得て登録している。又、市の主催の研修会にも参加して、意見交換を行っている。	市担当職員より、介護保険制度の疑問や運営についてアドバイスを貰ったり、情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の日々の様子を観察し、外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒について行くなど危険がないよう見守り支える。併設の老健との合同勉強会で「身体拘束ゼロ」を目指して学び実践している。	身体拘束をしないケアについて、日常業務において、何がいけないのか、スピーチロックは守られているのかなど、管理者と職員が認識を共有できるよう、身体拘束ゼロ委員会で学び日々確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は法人の基本方針であり、ミーティングやカンファレンスなどで職員間で意見交換や、合同勉強会でも学び、マニュアルも見直し周知徹底を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	老健との合同勉強会で年1回は、権利擁護に関する事や「成年後見制度」について学び、理解を深めて共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者や支援相談員が内容について丁寧に説明を行い、十分に理解をしていただいた上で、契約をしていただいたり、同意書に署名捺印をいただいている。又、いつでも相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、利用者や全ての家族にも案内し出席いただき、ご意見や要望を聞く場を設けている。又、意見箱を設置し、随時ご意見や苦情を受け付けている。	利用者の近況報告として、毎月便りを届け、家族が事業所に来訪された折に、意見や要望がないか問いかけている。入居時には、職員と共に利用者を支えるために家族の関わりをお願いしており、家族は積極的に来訪されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス等で意見を出し合い、日頃のコミュニケーションを通して報告・連絡・相談を随意行なっている。特にミーティングではざっくばらんに話し合える様にし、個々の思いを全体で把握・共有出来る様にしている。	管理者は日常業務の中で、職員から意見や要望を聞くようにしている。利用者の昼食が済んだ後、短時間でも一斉に休憩をとることにより、職員からは様々な建設的な意見が出されるなど、意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の疲労やストレスの要因にも気を配り、気分転換できる時間を確保したり、職員同志の人間関係を把握したりしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内の合同勉強会への参加の徹底や、法人外の外部研修の受講に最大限の協力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	南砺市地域包括ケア会議や南砺市グループホーム連絡会に出席し、情報交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。法人内のグループホームとも情報交換を行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問にて、利用者・その家族の希望や要望、これまでの生活環境の把握に努め、その人らしい生活を維持して、安心して暮らしていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家庭訪問や施設訪問を行い、本人を含めた家族の思いや求めている事などを把握し理解に努めている。得た情報は入居されるまでに職員で共有して、今後の対応に生かし信頼関係を築く礎としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は、支援相談員と共に事前面談を行い、本人評価で利用者や家族の思いや周辺状況を把握し、入居審査会で他職種の職員にも意見を求め、対応について検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する・支援されるという意識を持たず、暮らしを共にして、支えあいながら穏やかな生活ができるような関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が施設に預けっぱなしの場合は、法人として退去の基準となる旨を入居時に伝え、来所回数であったり、運営推進会議への出席をお願いしているが、参加が少なく苦慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人ひとりの状況に寄り添った介護を目指しており、美容院なども出来るだけ家族の協力を得て、昔馴染みの美容院や行きつけの店に行ってもらっている。友人・知人の訪問を積極的に受け入れている。	外出の際には、馴染みの場所へ季節の花見に出かけたり、家族の協力を得て、墓参りや自宅へ帰るなど積極的に支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役になり、支援してトラブルを未然に防いだり、ゆったりとした時間や空間を作っている。利用者同士の席配置にも十分配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他へ転出された利用者にも、これまでの生活の継続性が損なわれないように、情報提供してきめの細かい対応に心がけている。機会があれば様子を見に行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活に寄り添いながら、希望を聞いたり汲み取ったりして、ケアプランに生かして実践につなげている。又、ご家族にも意向を伝え、その思いも聞き参考にしている。	日頃から利用者の出来ること、苦手なことなどを把握しながら、暮らし方の思いなど汲み取っている。自己表現が少ない利用者には、ジェスチャーなどでコミュニケーションを図り、言葉での自己決定や自己主張を引き出す対応に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に入居前後の生活背景を出来るだけ記入してもらい、利用者が安心して生活できる支援を行えるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主にリーダーと夜勤者は記載する「一日の様子」用紙に利用者個々の生活リズムが把握出来るようになっており、全員で確認する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを行なっている。又、問題が発生した時点でも直ちにカンファレンスを行い対応している。法人の他職種の職員にもアドバイスをもらい反映させている。家族には面会時に近況報告や介護計画について説明し意見を聞いている。	利用者が、自分らしい生活を送られるよう、本人、家族の思いや関係者の意見を参考に介護計画の作成に取り組んでいる。利用者の状態変化に応じて、ミニカンファレンスを行い、歩行器使用や服薬の変更などには法人の専門職に意見をもらいながら、現状に即して介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化や職員の気づき等はそれぞれのケア記録に記載し、職員間の情報を共有している。個別記録を基にケアプランの見直し・評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、予定日以外の通院や送迎及び必要な支援には柔軟に対応している。定期受診は希望に添って臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治振興会長・自治会長・老人会長や民生委員・南砺市地域包括ケア課に参加いただき運営推進会議を開催している。ご意見をいただいたり地域行事に参加させていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の福光あおいクリニックを主体として、週1回の定期受診で健康管理をしていただいている。又、急変時には往診や、夜間であれば電話で指示を頂き対応している。	福光あおいクリニックとの医療連携が確立されており、いつでも適切な医療が受けられるよう図られている。他の病院を受診の際には、家族に協力を頼んだり、必要に応じて管理者が同行して状況を説明し、相談や意見を貰うなど、スムーズな受診を進めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行える体制にある。又、看護職員が不在でも連携の取れる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の支援の方法について、家族と相談して介護サマリを提供して近況を伝えている。退院時には相談員と共に情報交換し、かかりつけ医とも協力して受入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の意向を踏まえて法人の運営指針を説明し、ターミナルケアを行わない事を事前に承諾していただいている。重度化の場合には、事前に家族と話し合い、承諾を得て医師と相談してしかるべく医療機関へ転院してもらっている。	入居時に、終末期対応が出来ないことを説明し家族の理解を得ている。状態変化や入院などでホームでの生活が困難になった時には、相談員と共に家族や医療との話し合いの場を設けている。併設する病院や老人保健施設など、法人全体で最後まで支える体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、法人の勉強会や独自の勉強会で対応や実践訓練を行なっている。職員全員が普救救命講習を定期的に通講・再受講して実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、火災避難訓練を通常体制と夜間想定で年2回実施している。その訓練に地元自治会から2～4名が「近所の人」ゼッケンで参加して協力いただいている。	避難訓練は、地域の住民の参加も得て年2回実施している。事業所として自然災害時の避難先は、併設されている老人保健施設になっており、ライフラインが停止した時にも、協力が得られる体制となっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には人生の年長者として敬意を払い、日頃の対応においても本人の気持ちを傷つけないよう支援し、安心して生活できるよう言葉使いに気をつけている。プライバシーにかかわる言動を慎み、職員間で日常的に確認と改善に心がけている。	利用者一人ひとりの性格や生活習慣を大切にして、プライドを損ねない対応に努めている。一番風呂に拘る利用者やみんなと一緒にゲームや体操などに加わらない利用者など、好き嫌いな事、苦手な事などを把握して、自由に時間や居場所を選択してもらうよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声がけして意向を尊重し、意思表示ができない場合には表情や反応を見ながら対応している。又、複数の選択肢を提案し、出来るだけ本人で決めることが出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は第一優先は利用者である事を常に念頭において業務を行い、利用者一人ひとりの体調などに配慮しながら利用者のペースに添って生活出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの生活習慣に合わせた支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらっている。理美容は、併設の老健福光あおいでの訪問理容サービスを利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立メニューは嗜好調査等を参考にして併設の老健福光あおいの管理栄養士と相談しながら作成している。お寿司の日や行事食も取り入れている。食材の皮むきやキザミ・盛り付けや、食後の食器拭きは協力してもらっている。	利用者には、食材の皮むきや茶わん拭きなど、出来ることを手伝ってもらっている。時々利用者の好みを聞いて好物を作り、赤椀を使ってお赤飯やお吸い物などを提供するなど、より美味しく食べてもらえるよう心配りされている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して必要な食量や水分がとれるよう支援し、個別に管理記録を記入し共有している。又、利用者が好きな物を家族にお願いして持って来てもらったりしている。栄養摂取では、管理栄養士のアドバイスも受けたり対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じた声かけやうがい薬やポリデント消毒等の口腔ケアを実施しており、義歯の管理も支援している。口腔内の不都合があれば、協力医の往診で対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりのリズムに合わせて、さりげなく付き添い、見守り声かけを行い自立支援をしている。パッド類は時間帯や個々にあわせてその都度検討して対応している。	利用者の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら早めの声かけを行いトイレへ誘導している。排泄リズムが掴みにくい利用者には、パット対応を行い、表情や行動でキャッチするなど、失敗のないように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、軽体操・水分補給（牛乳等）・繊維質の多い食材を提供し、自然排便を促すための工夫をしている。又、医師と相談しながら投薬コントロールも行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週4回実施し2回入っている、利用者の体調や希望を勘案しながら実施している。足浴やシャワー浴の事もある。利用者の負担にならないよう支援している。	利用者の体調や希望を聞きながら入浴をすすめ、長湯に注意して入浴支援を行っている。自分の思いを伝えることが出来なかった利用者が、自ら3回も浴槽に入ることがあり、心のリラックス効果が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースで気持ちよく眠りにつけるよう、日中の活動に配慮しながら休息を採り入れている。どうしても眠れない利用者には、医師と相談して眠剤を処方してもらい安眠につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルに保管し、全職員がそれを見て対応できるように徹底している。又、薬剤師より個々の薬について職員と一緒に説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月季節にあったお楽しみ会や作業レクでの作品作りや、生花・書道教室・貼り絵・塗り絵・パズル等日々変化をもたせるよう工夫している。又、洗濯物たたみ等軽作業で出来そうな事はしてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外での散歩や日光浴等を天候をみながら楽しんでもらっている。又、誕生月には好きな外食を提案している。地元での行事には出来るだけ参加している。又、利用者の希望を採り入れたり、運営推進会議の場で家族にも協力をお願いしている。	玄関を出れば、敷地内の木々や草花で四季折々の花見ができ、ベンチでの日向ぼっこや散歩などで気分転換を図っている。地域行事に参加することも多く、子供たちや住民との交流も頻繁に行っている。時々遠出のドライブを兼ねて近隣の祭り見物や外食などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に承諾を得て、小額のお小遣いを預かり、欲しいものを買うときに利用者個々の財布から支払が出来るよう支援している。その収支は家族に確認をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話を設置し、利用者が自由にかける事できる。自分でかけられない利用者には個々に支援している。ハガキや手紙は職員が投函している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の周辺にある花（椿・紫陽花など）と一緒に採りにいって花瓶に生けてもらったり、季節感のある折紙作品を飾っている。居室毎に温度計を設置して室温管理や採光などに配慮している。又、テレビの音量に配慮してコードレススピーカーシステムを採り入れて難聴者に配慮している。冬季間は加湿して湿度管理をしている。	広々としたリビングは、適度な室温が保たれており穏やかな雰囲気を感じられる。季節の飾りつけや利用者の笑顔ある行事写真が掲示されており、訪問者を和ませている。利用者はテーブルを囲んで、リンゴの皮むきを手伝ったり、塗り絵を楽しんだりと思い思いに時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにソファや畳みベンチを配置し、いつでも利用者同士が会話できるようにしている。又、1号館入口にベンチを配置して自由に使えるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前オリエンテーションで本人の使い慣れた筆筒・机などの家具類や布団・座布団、思い出のある物やアルバムなどの持ち込みをお願いして、温かい雰囲気が出るように努めている。又、電動ベッドで高さを調整して座りやすくしている。	利用者の使い慣れた品々を持参してもらい、居心地よく過ごせる居室になるよう、家族と共に工夫している。馴染んだ座布団に座り、小机の上で毎晩塗り絵をしてから休まれる利用者もあり、心落ち着く場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下・トイレ・浴室などの出入り口には手摺りを設置し、利用者には安全に生活し易いようになっている。利用者の状況に合わせて自立支援につなげるように配慮している。又、トイレは3箇所設置して利用者に配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 GH福光ほほえみの家

作成日 令和2年 3月 6日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議への家族の参加が少ない (1～3家族)	家族の出席率をアップしたい	丁寧な案内（年間6回の予定日の公開や面会時に参加のお願い）や出欠確認等で参加を促す。参加したら勉強になったと言われる様な企画を考えたい	1ヵ年
2		介護職員の不足による1号館の活動停止	職員を募集し、営業活動を再開したい	ハローワークや求人サイト・職員等の口利きで人員の確保を力に押し進めたい	1ヵ年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホーム 福光ほほえみの家